

厚生労働大臣 殿

滋賀医科大学医学部附属病院
病院長 森田 陸

滋賀医科大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成18年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照 (様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照 (様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	医科 58.96人	歯科 11.249人
--------	-----------	------------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照 (様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照 (様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	183人	117.4人	300.4人	看護業務補助	2人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	4人	6人	10人	理学療法士	6人	臨床検査 衛生検査	臨床検査技師 32人
薬 剤 師	22人	7人	29人	作業療法士	3人		衛生検査技師 1人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	6人	そ の 他	0人
助 産 師	13人	0.7人	13.7人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	414人	28.5人	442.5人	臨床工学技士	4人	医療社会事業従事者	2人
准看護師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	2人
歯科衛生士	0人	2人	2人	歯 科 技 工 士	1人	事 務 職 員	68人
管理栄養士	5人	4人	9人	診療放射線技師	24人	そ の 他 の 職 員	21人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること

8 入院患者、外来患者及び調剤の数
歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	486.0人	5.7人	491.7人
1日当たり平均外来患者数	1,144.7人	49.8人	1,194.5人
1日当たり平均調剤数	1,012.3 剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 高度先進医療の承認の有無及び取扱い患者数

高度先進医療の種類（医科）	承認	取扱い患者数
・顔面骨、頭蓋骨の観血的移動術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・培養細胞による先天性代謝異常診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・溶血性貧血症の病因解析及び遺伝子解析診断法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
・人工中耳	有・ <input type="radio"/> 無	人
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	有・ <input type="radio"/> 無	人
・性腺機能不全の早期診断法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・経皮的レーザー椎間板切除術（内視鏡下を含む）	有・ <input type="radio"/> 無	人
・造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白質の測定	有・ <input type="radio"/> 無	人
・スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・血小板膜糖蛋白異常症の病型及び病因診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・焦点式高エネルギー超音波療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・オープンMRを用いた腰椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・肺腫瘍のCTガイド下気管支鏡検査	有・ <input type="radio"/> 無	人
・先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・SDI法による抗がん剤感受性試験	有・ <input type="radio"/> 無	人
・内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
・栄養障害型表皮水疱症のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・家族性アミロイドーシスのDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・マス・スペクトロメトリーによる家族性アミロイドーシスの診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・抗がん剤感受性試験	有・ <input type="radio"/> 無	人
・子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・不整脈疾患における遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・腹腔鏡下肝切除術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・画像支援ナビゲーション手術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・悪性腫瘍に対する粒子線治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
・エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・成長障害のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・生体部分肺移植術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・声帯内自家側頭筋膜移植術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・骨髄細胞移植による血管新生療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・ミトコンドリア病のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有・ <input type="radio"/> 無	人
・鏡視下肩峰下腔除圧術	有・ <input type="radio"/> 無	人

高度先進医療の種類（医科）	承認	取扱い患者数
・神経変性疾患のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・脊髄性筋萎縮症のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・固形がんに対する重粒子線治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
・脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・カフェイン併用化学療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・ ³¹ P-磁気共鳴スベクトロスコピーとケカルツト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	<input checked="" type="radio"/> 有・無	1人
・特発性男性不妊症又は性腺機能不全症の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・胎児尿路・羊水腔シャント術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・遺伝性コプロポルフィリン症のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・固形腫瘍（神経芽腫）のRNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
・重症BCG副反応症例における遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・自家液体窒素処理骨による骨軟部腫瘍切除後骨欠損の再建	有・ <input type="radio"/> 無	人
・臍腫瘍に対する腹腔鏡補助下臍切除術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・悪性脳腫瘍に対する抗がん剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・ <input type="radio"/> 無	人
・高発がん性遺伝性皮膚疾患のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・筋過緊張に対するmuscle afferent block (MAB) 治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
・Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・エキシマレーザー冠動脈形成術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・活性化Tリンパ球移入療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・抗がん剤感受性試験（CD-DST法）	<input checked="" type="radio"/> 有・無	181人
・胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・中枢神経白質形成異常症の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・三次元再構築画像による股関節疾患の診断と治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
・樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	<input checked="" type="radio"/> 有・無	10人
・内視鏡下甲状腺がん手術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	有・ <input type="radio"/> 無	人
・下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術（CT透視下法）	有・ <input type="radio"/> 無	人
・胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・活性化血小板の検出	有・ <input type="radio"/> 無	人
・早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・ <input type="radio"/> 無	人
・ケラチン病の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・末梢血幹細胞（CD34陽性細胞に限る。）による血管再生治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
・末梢血単核球移植による血管再生治療	有・ <input type="radio"/> 無	人

高度先進医療の種類（医科）	承認	取扱い患者数
・副甲状腺内活性型ビタミンD（アナログ）直接注入療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・グルタミン受容体自己抗体による自己免疫性神経疾患の診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・腹腔鏡下広汎子宮全摘出術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・自己腫瘍（組織）を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・自己腫瘍（組織）及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・ <input type="radio"/> 無	人

高度先進医療の種類（歯科）	承認	取扱い患者数
・インプラント義歯	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
・顎顔面補綴	有・ <input type="radio"/> 無	人
・顎関節症の補綴学的治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
・歯周組織再生誘導法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・接着ブリッジによる欠損補綴並びに動揺歯固定	有・ <input type="radio"/> 無	人
・光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・エックス線透視下非観血的唾石摘出術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・レーザー応用による齲蝕除去・スクレーピングの無痛療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・顎関節鏡視下レーザー手術併用による円板縫合固定術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・顎関節脱臼内視鏡下手術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・耳鼻いんこう科領域の機能障害を伴った顎関節症に対する中耳伝音系を指標とした顎位決定法	有・ <input type="radio"/> 無	人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
・高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・自動吻合器を用いた直腸粘膜脱又は内痔核手術（PPH）	<input checked="" type="radio"/> 有・無	1人
・画像支援ナビゲーションによる膝靭帯再建手術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
・強度変調放射線治療	<input checked="" type="radio"/> 有・無	3人
・胎児心超音波検査	有・ <input type="radio"/> 無	人
・内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・画像支援ナビゲーションによる内視鏡下鼻内副鼻腔手術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・インプラント義歯	有・ <input type="radio"/> 無	人
・顎顔面補綴	有・ <input type="radio"/> 無	人
・人工中耳	有・ <input type="radio"/> 無	人
・歯周組織再生誘導法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・抗がん剤感受性試験	有・ <input type="radio"/> 無	人
・腹腔鏡下肝切除術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・生体部分肺移植術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・活性化血小板の検出	有・ <input type="radio"/> 無	人
・末梢血幹細胞による血管再生治療	有・ <input type="radio"/> 無	人

高度先進医療の種類（医科）	承認	取扱い患者数
・カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・超音波骨折治療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・眼底三次元画像解析	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテーラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・非生体ドナーから採取された同種骨・靱帯組織の凍結保存	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・X線CT診断装置及び手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人

(注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 高度先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

3 高度先進医療で上の表に掲げているものは、今年度の業務に関する報告の対象ではないが来年度以降の参考のため記入すること。

2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	24人	・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	16人
・多発性硬化症	19人	・ウェゲナー肉芽腫症	4人
・重症筋無力症	20人	・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	77人
・全身性エリテマトーデス	87人	・多系統萎縮症	15人
・スモン	2人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1人
・再生不良性貧血	23人	・膿疱性乾癬	9人
・サルコイドーシス	37人	・広範脊柱管狭窄症	7人
・筋萎縮性側索硬化症	15人	・原発性胆汁性肝硬変	25人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	41人	・重症急性膵炎	10人
・特発性血小板減少性紫斑病	37人	・特発性大腿骨頭壊死症	40人
・結節性動脈周囲炎	12人	・混合性結合組織病	11人
・潰瘍性大腸炎	257人	・原発性免疫不全症候群	0人
・大動脈炎症候群	7人	・特発性間質性肺炎	3人
・ピュルガー病	6人	・網膜色素変性症	16人
・天疱瘡	9人	・プリオン病	0人
・脊髄小脳変性症	16人	・原発性肺高血圧症	2人
・クローン病	97人	・神経線維腫症	11人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・悪性関節リウマチ	6人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・パーキンソン病関連疾患	47人	・特発性慢性肺血栓栓症(肺高血圧型)	1人
・アミロイドーシス	5人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	2人
・後縦靭帯骨化症	57人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・ハンチントン病	3人		

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	週一回を原則としている。	
剖検の状況	剖検症例数 19 例	剖検率 11.4 %

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (千円)	補助元又は委託元
致死性遺伝性不整脈疾患の遺伝子診断と臨床応用	堀江 稔	循環器内科	3,000	補委 厚生労働科学研究費補助金
本邦における催不整脈右心室心筋症の原因遺伝子検索	堀江 稔	循環器内科	5,000	補委 国立循環器病センター
無症候性Brugada症候群症例のSCN5A遺伝子検索とその機能解析	堀江 稔	循環器内科	950	補委 国立循環器病センター
治験の実施に関する研究 (塩酸ペプリジル)	伊藤 誠	循環器内科	4,200	補委 日本医師会
心筋代謝と神経体液・免疫性因子による心室リモデリングの解明	蔦本 尚慶	循環器内科	600	補委 文部科学省科学研究費補助金
冠動脈硬化と冠血管機能におけるプロスタグランジンD合成酵素の意義	松本 鉄也	循環器内科	1,500	補委 文部科学省科学研究費補助金
虚血性心疾患における心電図同期SPECT (QGS) 検査に関する国内臨床データベース作成のための調査研究-2 2型糖尿病患者における無症候性心筋虚血の評価	松尾 信郎	循環器内科	472.5	補委 循環器病研究振興財団
核移行シグナルをつけたAktの遺伝子導入による心肥大抑制作用	辻田 靖之	循環器内科	2,100	補委 文部科学省科学研究費補助金
統合的人体シミュレーションを目指したパーチャル心臓の機能モジュール化の研究	芦原 貴司 (分担)	循環器内科	6,300	補委 文部科学省科学研究費補助金
細胞・生体シミュレーションプロジェクト, 全心臓電気現象の包括的シミュレーション技術の開発による個別患者における不整脈発生危険予測システムの開発	芦原 貴司 (分担)	循環器内科	7,350	補委 文部科学省リーディングプロジェクト
ヒト心室筋モデルの構築を基盤とした致死性不整脈発生の予知に関する理論的研究	芦原 貴司	循環器内科	1,200	補委 文部科学省科学研究費補助金
SCN5A遺伝子異常陰性のブルガダ症候群における遺伝子異常の同定と機能解析	伊藤 英樹	循環器内科	1,200	補委 文部科学省科学研究費補助金
慢性閉塞性肺疾患の発症機序と体格に関する研究—画像解析と遺伝子多型解析の融合—	中野 恭幸	呼吸器内科	2,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
COPDのphenotypingに関する包括的研究	中野 恭幸	呼吸器内科		補委 文部科学省科学研究費補助金
多次元医用画像の知的診断支援「解剖学的分類に基づく知的CAD」	中野 恭幸	呼吸器内科	500	補委 文部科学省科学研究費補助金
胸部CTによる結核の早期診断支援および結核の疾患活動性に影響を与える因子の検討	長尾 大志	呼吸器内科	300	補委 財団法人滋賀県健康づくり財団
インターロイキン22を標的とした炎症性腸疾患に対する分子標的療法確立の基礎検討	安藤 朗	消化器内科	1,500	補委 文部科学省科学研究費補助金
遺伝子導入骨髄幹細胞移植を用いた新たな炎症性腸疾患治療法開発の基礎検討	安藤 朗	消化器内科	1,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
長寿科学総合研究事業：高齢者糖尿病に対する総合診療体制確立のための総合的研究—無作為比較研究(J-EDIT)を中心に	柏木 厚典	内分泌代謝内科	1,000	補委 厚生労働科学研究費補助金
循環器疾患等総合研究事業：「糖尿病における血管合併症の発症予防と進展抑制に関する研究(JDC Study)」	柏木 厚典	内分泌代謝内科	400	補委 厚生労働科学研究費補助金
メタボリックシンドローム発症遺伝子：新しい食事誘導性蛋白の同定とその機能解析	柏木 厚典	内分泌代謝内科	3,800	補委 文部科学省科学研究費補助金

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (千円)	補助元又は委託元
メタボリックシンドローム病態形成におけるチロシンホスファターゼ1Bの役割	前川 聡	内分泌代謝内科	1,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
メタボリックシンドローム病態形成におけるプロテインホスファターゼ2Aの役割	卯木 智	内分泌代謝内科	1,300	補委 文部科学省科学研究費補助金
食後血管組織で活性化される炎症関連転写因子の活性化と遺伝子応答を明かにする	西尾 善彦	内分泌代謝内科	2,100	補委 文部科学省科学研究費補助金
循環器疾患等総合研究事業:「糖尿病性腎症の寛解を目指したチーム医療による集約的治療」研究	宇津 貴	腎臓内科	1,000	補委 厚生労働科学研究費補助金
新たな糖尿病性腎症治療標的分子としてのHSP遺伝子群の基礎的・臨床的意義の解明	荒木 信一	腎臓内科	1,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
腹膜繊維症モデルラットの腹膜組織変化に対するAGE阻害薬と生理活性ペプチドAcSDKPの効果	一色 啓二	腎臓内科	400	補委 腹膜機能リサーチ2006年度研究助成金
有痛性糖尿病性神経障害発症におけるテトロドトキシン抵抗性Na ⁺ チャネルの関与	真田 充	神経内科	2,100	補委 文部科学省科学研究費補助金
摂食情報ネットワークを制御する骨髄由来ミクログリアの役割ー脳内ソフトウェア・プログラムと糖尿病における破綻ー	浦部 博志	神経内科	2,000	補委 学長裁量経費
ミトコンドリア脳筋症における脳卒中様発作の病態解明と治療薬の開発	前田 憲吾	神経内科	350	補委 滋賀医学国際協力会助成金
難治性小児固形腫瘍に対する塩酸イリノテカンの第I-II相臨床試験	多賀 崇	小児科	2,680	補委 厚生労働科学研究費補助金
ケラチン点突然変異をモデルとした優性抑制解除法の開発	田中 俊宏	皮膚科	900	補委 文部科学省科学研究費補助金
MR画像対応手術支援マイクロ波機器の開発	谷 徹	消化器外科 乳腺・一般外科	62,257	補委 文部科学省科学研究費補助金(JST委託)
マイクロ波応用手術支援機器と手術システムの臨床応用	谷 徹	消化器外科 乳腺・一般外科	32,000	補委 科学技術振興機構
体腔内ロボットの開発	谷 徹	消化器外科 乳腺・一般外科	19,900	補委 文部科学省科学研究費補助金
酸化チタンの超高速触媒反応による医療廃棄物の低温省エネ分解法	谷 徹	消化器外科 乳腺・一般外科	10,000	補委 経済産業局 (近畿経済産業局)
虚血性心疾患の手術死亡率および合併症発症率改善のための多施設共同研究	浅井 徹 松林 景二	心臓血管外科	1,200	補委 国立循環器病センター
腫瘍関連抗原90Kを標的とした癌免疫療法の開発と臨床応用	尾崎 良智	呼吸器外科	2,100	補委 文部科学省科学研究費補助金
濃度勾配コラーゲンによる関節軟骨欠損修復に関する研究	松末 吉隆	整形外科	700	補委 文部科学省科学研究費補助金
難治性疾患克服研究事業脊椎靭帯骨化症に関する調査研究	松末 吉隆	整形外科	800	補委 厚生労働科学研究費補助金
神経幹細胞移植による側頭葉てんかん治療の可能性の検討	鈴木 文夫	脳神経外科	600	補委 文部科学省科学研究費補助金
脳梗塞急性期のMRIによる脳酸素代謝率の画像化と血栓溶解療法の適応診断技術の開発	松田 昌之	脳神経外科	1,200	補委 文部科学省科学研究費補助金
化学・放射線療法が必要な若年女性患者の卵巣機能温存のための卵巣凍結保存技術の確立	清水 良彦	女性診療科	1,800	補委 文部科学省科学研究費補助金

小計43

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (千円)	補助元又は委託元
ヒト精巣腫瘍のエピジェネティクス制御機構の解明とその臨床応用	岡本 圭生	泌尿器科	4,100	補委 文部科学省科学研究費補助金
膀胱尿管逆流症におけるウロプラキニンIIIの意義と尿中mRNA定量による検査法の確立	上仁 数義	泌尿器科	1,300	補委 文部科学省科学研究費補助金
ヒトにやさしい抗癌治療：抗V7療法の開発	影山 進	泌尿器科	6,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
インドシアニングリーンとフェムト秒レーザーによる光線力学療法の開発	大路 正人	眼科	1,200	補委 文部科学省科学研究費補助金
脈絡膜上経網膜電気刺激(STS)法による人工視覚システムの臨床応用	大路 正人	眼科	2,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金
杆体一色型色覚における遺伝子変異の機能的解析	村木 早苗	眼科	1,100	補委 文部科学省科学研究費補助金
MR Spectroscopyを用いた局所脳神経機能測定法の開発	福井 聖	ペインクリニック科	1,300	補委 文部科学省科学研究費補助金
慢性椎間板性腰痛に対する椎間板内高周波熱凝固法の開発	福井 聖	ペインクリニック科	1,000	補委 (財) 医科学応用研究財団研究助成金
卓上シンクロトロンを用いた超拡大胸部X線撮像法の開発に関する研究	村田 喜代史	放射線科	900	補委 文部科学省科学研究費補助金
造影シスプラチン製剤を用いた各種肝脈内注入療法における腫瘍内薬剤動態の検討-7 Tesla Magnetic Resonance Imagingを用いて	園田 明永	放射線科	1,000	補委 日本医学放射線学会研究助成金
フラットパネルディテクターを用いた座位胸部連続撮影装置 (FPD-CT)有用性の検討	新田 哲久	放射線科	700	補委 キヤノン
The influence of surface property and immediate loading of dental implants on "Soft tissue integration" ~A clinical and histologic study in Grab-eating macaques~	坂本 耕造	歯科口腔外科	2,260	補委 Nobel Biocare AB, Sweden
口腔癌患者に対するデンタルインプラント治療の研究	西川 正典	歯科口腔外科		補委 日本学術振興会 特定国派遣研究者(ドイツ・短期)
カニクイザルの下顎骨に埋入した歯科インプラントと周囲歯肉軟組織との結合(Soft tissue integration)と影響因子に関する研究	坂本 耕造	歯科口腔外科	1,000	補委 カニクイザルを使用した研究に対する奨励賞
各種疾患病態における新規遺伝子RB1CC1の関わりと臨床医学応用への試み	岡部 英俊	検査部	3,500	補委 文部科学省科学研究費補助金
癌抑制遺伝子RB1CC1のシステム破綻による発がん機構とその抑制	茶野 徳宏	検査部	5,400	補委 文部科学省科学研究費補助金
第14番染色体長腕上のヒト腎細胞癌特異的刷り込み型癌抑制遺伝子の同定	川上 享弘	検査部	5,900	補委 文部科学省科学研究費補助金
重症患者における多臓器不全発症のメカニズムの解明	藤野 和典	救急・集中治療部	1,800	補委 文部科学省科学研究費補助金
力学的刺激による関節軟骨再生の試み	今井 晋二	リハビリテーション部	900	補委 文部科学省科学研究費補助金
力学的刺激による関節軟骨再生の試み	今井 晋二	リハビリテーション部	3,300	補委 日本学術振興会
濃度勾配コラーゲンによる関節軟骨欠損修復に関する研究	松末 吉隆	リハビリテーション部	3,300	補委 日本学術振興会
外傷後の慢性腰痛症における侵害受容神経経路とその病態生理	今井 晋二	リハビリテーション部	1,000	補委 日本損害保険協会

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (千円)	補助元又は委託元	
滋賀県における関節リウマチのリハビリテーション実態調査	今井 晋二	リハビリテーション部	500	補 ⑤ 委	滋賀県
小児の臨床研究推進に必要な人材育成と環境整備のための教育プログラム作成	中川 雅生	治験管理センター	13,500	⑤ 補 委	厚生労働科学研究費補助金
小児等の特殊患者群に対する医薬品の有効性、安全性情報の収集とそれらの情報に基づくリスク評価・管理手法に関する研究	中川 雅生	治験管理センター	300	⑤ 補 委	厚生労働科学研究費補助金

計 68

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Card Fail 12(1) 77-84 2006	Proteomic analysis reveals significant alternations of cardiac small heat shock protein expression in congestive heart failure	Fujii M	循環器内科
Biochem Biophys Res Commun 344 189-193 2006	Tumor necrosis factor- α inhibits the cardiac delayed rectifier K current via the sphingomyelin pathway	Horie M	循環器内科
Circ J 70(7) 857-863 2006	Prediction of mortality by high-sensitivity C-reactive protein and brain natriuretic Peptide in patients with dilated cardiomyopathy	Tsutamoto T	循環器内科
Circ J 70(4) 502-508 2006	Arrhythmogenesis in the short-QT syndrome associated with combined HERG channel gating defects: A Simulation Study	Itoh H	循環器内科
Ann Nucl Med 20 57-62 2006	Impact of endothelial dysfunction on left ventricular remodeling after successful primary coronary angioplasty for acute myocardial infarction-Analysis by quantitative ECG-gated SPECT-	Matsuo S	循環器内科
Cardiovasc Revasc Med 7(4) 255-257 2006	Primary malignant lymphoma of the right atrium resulting in superior vena caval syndrome in an HIV-positive patient: depiction at multislice computed tomography and magnetic resonance imaging	Matsuo S	循環器内科
Ann Nucl Med 20(9) 643-647 2006	Evaluation of cardiac resynchronization therapy in drug-resistant dilated-phase hypertrophic cardiomyopathy by means of Tc-99m sestamibi ECG-gated SPECT	Matsuo S	循環器内科
Acta Radiol 47 810-816 2006	Iodine-123 BMIPP scintigraphy in the evaluation of patients with heart failure	Nakae I	循環器内科
Circ J 70(7) 933-935 2006	A novel mutation of plakophilin-2 associated with arrhythmogenic right ventricular cardiomyopathy	Nagaoka I	循環器内科
Heart Rhythm 4(3) 332-340 2007	N- and C-terminal KCNE1 mutations cause distinct phenotypes of long QT syndrome	Zankov DP	循環器内科
Circ J 70(6) 645-650 2006	Gender and age effects on ventricular repolarization abnormality in Japanese general carriers of G643S common single nucleotide polymorphism of KCNQ1 gene	Yao T	循環器内科
Circ J 70(8) 1006-1011 2006	Serum level of uric acid, partly secreted from the failing heart, is a prognostic marker in patients with congestive heart failure	Tsutamoto T	循環器内科
Circulation 113(6) 783-790 2006	The jervell and Lange-Nielsen syndrome. natural history, molecular basis, and clinical outcome	Horie M	循環器内科
Clin Rheumatol 26(6) 1005-1007 2007	The occurrence of systemic lupus erythematosus in an asymptomatic carrier of human T-cell lymphotropic virus type I	Takashima H	循環器内科
Hypertens Res 29(11) 891-896 2006	Relationship between metabolic syndrome and Trp64arg polymorphism of the beta-adrenergic receptor gene in a general sample: the Shigaraki study	Tsujita Y	循環器内科
Hypertens Res 29(10) 783-788 2006	The association between morning hypertension and metabolic syndrome in hypertensive patients	Horie M	循環器内科

小計16

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Mol Cell Cardiol 42(3) 662-669 2007	Mechanistic basis for the pathogenesis of long QT syndrome associated with a common splicing mutation in KCNQ1 gene	Tsuji K	循環器内科
Proc Natl Acad Sci USA 103(32) 11946-11951 2006	Nuclear targeting of Akt antagonizes aspects of cardiomyocyte hypertrophy	Tsujita Y	循環器内科
J Am Coll Cardiol 47(3) 582-586 2006	Relationship between renal function and plasma brain natriuretic peptide in patients with heart failure	Tsutamoto T	循環器内科
Hypertens Res 29(6) 417-422 2006	Impact of paraoxonase polymorphism (Q192R) on endothelial function in intact coronary circulation	Yamane T	循環器内科
Circ J 70(3) 335-341 2006	Blockade of angiotensin II type 1 receptor improves the arrhythmia morbidity in mice with left ventricular hypertrophy	Zankov DP	循環器内科
Circulation 113(10) 1278-1286 2006	Angiotensin II potentiates IKs potassium current via AT1 receptors in guinea-pig atrial myocytes	Zankov DP	循環器内科
Circulation 114(18) e565 2006	Response to letter regarding article, "Angiotensin II potentiates the slow component of delayed rectifier K ⁺ current via the AT1 receptor in guinea pig atrial myocytes	Zankov DP	循環器内科
Pediatr Radiol 36(1) 50-53 2006	Dose reduction for CT in children with cystic fibrosis: is it feasible to reduce the number of images per scan?	Nakano Y	呼吸器内科
Am J Respir Crit Care Med 173(2) 199-203 2006	Estimation of cancer mortality associated with repetitive computed tomography scanning	Nakano Y	呼吸器内科
Pediatr Radiol 36(10) 1043-1047 2006	Computed tomography dose and variability of airway dimension measurements: How low can we go?	Nakano Y	呼吸器内科
Pharmacology & Therapeutics 114(1) 94-106 2007	Role of intestinal subepithelial myofibroblasts in inflammation and regenerative response in the gut	Andoh A	消化器内科
J Gastroenterology Suppl 17 29-33 2007	Interaction between interleukin-17-producing CD4(+) T cells and colonic subepithelial myofibroblasts: what are they doing mucosal inflammation?	Andoh A	消化器内科
Clin Gastroenterol Hepatol 4(12) 1502-1506 2006	Curcumin Maintenance Therapy for Ulcerative Colitis: Randomized, Multicenter, Double-Blind, Placebo-Controlled Trial	Andoh A, Fujiyama Y	消化器内科
World J Gastroenterol 12(28) 4452-4460 2006	Therapeutic approaches targeting intestinal microflora in inflammatory bowel disease	Andoh A	消化器内科
Mol Endocrinol 20(5) 1104-1111 2006	Intronic polymorphisms within TFAP2B regulate transcriptional activity and affect adipocytokine gene expression in differentiated adipocytes	Tsukada S et al.	内分泌代謝内科 神経内科
Diabetes Care 29(8) 1884-1890 2006	Low blood flow estimates in lower-leg arteries predict cardiovascular events in Japanese patients with type 2 diabetes with normal ankle-brachial indexes	Yoshimura T et al.	内分泌代謝内科 神経内科

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Biol Chem 281(42) 31245-31253 2006	Transcription factor activating enhancer-binding protein-2beta A negative regulator of adiponectin gene expression	Ikeda K et al.	内分泌代謝内科 神経内科
Pterines 2006	Tetrahydrobiopterin and Endothelial Dysfunction in Cardiovascular Diseases	Shinozaki K et al.	内分泌代謝内科 神経内科
Diabetes Care 29(11) 2445-2451 2006	Combination of multiple genetic risk factors is synergistically associated with carotid atherosclerosis in Japanese subjects with type 2 diabetes	Yamasaki Y et al.	内分泌代謝内科 神経内科
Proc Natl Acad Sci USA 104(10) 4030-4035 2007	Fusion of proinsulin-producing bone marrow-derived cells with hepatocytes in diabetes	Fujimiya M et al.	内分泌代謝内科 神経内科
Diabetologia 50(2) 481-489 2007	Increased expression of CCAAT/enhancer binding protein-beta and -delta and monocyte chemoattractant protein-1 genes in aortas from hyperinsulinaemic rats	Sato Y et al.	内分泌代謝内科 神経内科
J Cardiovasc Pharmacol 49(3) 122-30 2007	Pitavastatin restores vascular dysfunction in insulin-resistant state by inhibiting NAD(P)H oxidase activity and uncoupled endothelial nitric oxide synthase-dependent superoxide production	Shinozaki K et al.	内分泌代謝内科 神経内科
Biochem Biophys Res Commun 340(1) 296-301 2006	Inhibition of mTOR signaling with rapamycin attenuates renal hypertrophy in the early diabetic mice	Sakaguchi M et al.	腎臓内科
Intern Med 45(8) 557-561 2006	Systemic cholesterol embolization syndrome associated with myeloperoxidase-anti-neutrophil cytoplasmic antibody	Sugimoto T et al.	腎臓内科
Biochem Biophys Res Commun 342(3) 758-765 2006	N-acetyl-seryl-aspartyl-lysyl-proline inhibits DNA synthesis in human mesangial cells via up-regulation of cell cycle modulators	Kanasaki K et al.	腎臓内科
Contemporary Diabetes 2006	PPAR- γ Ligands and Diabetic Nephropathy	Isshiki K et al.	腎臓内科
Diabetes Care 29(4) 864-868 2006	Polymorphisms of the protein kinase C-beta gene(PRKCB1) accelerate kidney disease in type 2 diabetes without overt proteinuria	Araki S et al.	腎臓内科
Free Radic Biol Med 40(12) 2175-2182 2006	Silent information regulator 2 (SIRT1) attenuates oxidative stress-induced mesangial cell apoptosis via p53 deacetylation	Kume S et al.	腎臓内科
Nat Clin Pract Nephrol 2(5) 242-243 2006	Is glomerular filtration rate in children after 5 years of type 1 diabetes associated with development of albuminuria?	Araki S	腎臓内科
J Hum Hypertens 20(7) 549-550 2006	Change in circadian rhythm of blood pressure by bilateral radical nephrectomy and haemodialysis: a case report	Uzu T et al.	腎臓内科
Clin Rheumatol 25(4) 575-576 2006	Cytomegalovirus-induced small-bowel hemorrhage in a patient with nonsystemic vasculitic neuropathy	Sugimoto T et al.	腎臓内科 神経内科
Intern Med 45(13) 831-832 2006	Recurrent parotitis as a first manifestation of adult primary Sjogren's syndrome	Sugimoto T et al.	腎臓内科

小計48

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Mod Rheumatol 16(4) 267-268 2006	Early morning neutropenia in a patient with systemic lupus erythematosus	Sugimoto T et al.	腎臓内科
Mod Rheumatol 16(5) 309-311 2006	Scleroderma renal crisis in a patient with anticentromere antibody-positive limited cutaneous systemic sclerosis	Sugimoto T et al.	腎臓内科
J Hypertens 24(8) 1627-1632 2006	Enhanced sodium sensitivity and disturbed circadian rhythm of blood pressure in essential hypertension	Uzu T et al.	腎臓内科
Nephron Clin Pract 105(2) c54-c57 2007	Glucocorticoid-induced diabetes mellitus: prevalence and risk factors in primary renal diseases	Uzu T et al.	腎臓内科
Intern Med 45(19) 1101-1102 2006	Renal segmental hypoplasia, Ask-Upmark kidney, in a patient with adult-onset hypertension	Sugimoto T et al.	腎臓内科 内分泌代謝内科
J Biol Chem 282(1) 151-158 2007	SIRT1 inhibits transforming growth factor beta-induced apoptosis in glomerular mesangial cells via Smad7 deacetylation	Kume S et al.	腎臓内科
Intern Med 46(1) 49-53 2007	Pulmonary-renal syndrome, diffuse pulmonary hemorrhage and glomerulonephritis, associated with Wegener's granulomatosis effectively treated with early plasma exchange therapy	Sugimoto T et al.	腎臓内科
FEBS Lett 581(7) 1417-1424 2007	Legumain/asparaginyl endopeptidase controls extracellular matrix remodeling through the degradation of fibronectin in mouse renal proximal tubular cells	Morita Y et al.	腎臓内科
Hypertens Res 30(2) 161-165 2007	Benidipine attenuates glomerular hypertension and reduces albuminuria in patients with metabolic syndrome	Uzu T et al.	腎臓内科
Intern Med 2007	A hyperparathyroid state in a patient with glycyrrhetic acid-induced pseudoaldosteronism	Sugimoto T et al.	腎臓内科
Intern Med 46(1) 49-53 2007	Pulmonary-renal syndrome, diffuse pulmonary hemorrhage and glomerulonephritis, associated with Wegener's granulomatosis effectively treated with early plasma exchange therapy	Sugimoto T et al.	腎臓内科
Clin Rheumatol 26(3) 429-432 2007	A case of myeloperoxidase-antineutrophil cytoplasmic antibody positive-polyarteritis nodosa complicated by interstitial pneumonia and rapidly progressive renal failure	Sugimoto T et al.	腎臓内科
J Rheumatol 34(2) 440-441 2007	Symmetric peripheral gangrene as an emerging manifestation of polyarteritis nodosa	Ninomiya T et al.	腎臓内科
Diabetologia 50(4) 867- 873 2007	Predictive impact of elevated serum level of IL-18 for early renal dysfunction in type 2 diabetes:an observational follow-up study	Araki S et al.	腎臓内科
Rheumatol Int 2006	The occurrence of sensorineural hearing loss in a patient with myeloperoxidase-anti-neutrophil cytoplasmic antibody-related microscopic polyangiitis	Sugimoto T et al.	腎臓内科 内分泌代謝内科
内科専門医会誌 2006	A case of Lofgren's syndrome, a variant of sarcoidosis, in a Japanese woman	Sugimoto T et al.	腎臓内科

小計64

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Neurol Neurosurg Psychiatry 77(1) 123-124 2006	Paraneoplastic cerebellar degeneration in olfactory neuroepithelioma	Maeda K et al.	神経内科
Intern Med 45(3) 177 2006	Truncal neuropathy as the initial symptom of sarcoidosis	Maeda K et al.	神経内科
Neuroreport 17(6) 683-688 2006	Effect of protein kinase Cbeta inhibitor on Ca ²⁺ homeostasis in diabetic sensory neurons	Tahara M et al.	神経内科
Endocrinol 147(4) 1685-1696 2006	The transcription factor AP-2beta causes cell enlargement and insulin resistance in 3T3-L1 adipocytes	Tao Y et al.	神経内科
Intern Med 45(13) 835-836 2006	Pyogenic ventriculitis with ruptured brain abscess	Maeda K et al.	神経内科
Biochem Biophys Res Commun 349(1) 136-143 2006	MafA differentiates rat intestinal cells into insulin-producing cells	Nomura S et al.	神経内科
Intern Med 46(2) 75-76 2007	Segmental muscular atrophy in a patient with post polio syndrome	Maeda K, Joko M	神経内科
Neurology 67(9) 1712 2006	Microhemorrhages in a patient with reversible posterior leukoencephalopathy syndrome	Kawai H et al.	神経内科
Transplantation 82(2) 282-285 2006	Liver transplantation using donor with Gilbert syndrome	Kaneko J, Maruo Y	小児科
Brain Res 1089(1) 55-66 2006	Neuronal apoptosis and gray matter heterotopia in microcephaly produced by cytosine arabinoside in mice	Takano T, Takeuchi Y	小児科
Pediatr Neurol 35(1) 38-41 2006	Enhanced capacity of epilepsy in brain malformation produced during early development	Takano T, Takeuchi Y	小児科
J Perinat Med 34(3) 254-255 2006	Frontal-dominant white matter lesions following congenital rubella and cytomegalovirus infection	Takano T, Takeuchi Y	小児科
Pediatr Neurol 37(1) 64-66 2007	West syndrome in a patient with balanced translocation t(X;18)(p22;p11.2)	Takano T, Takeuchi Y	小児科
J Dermatol 33 389-393 2006	Subungual glomus tumor diagnosis based in imaging	Fujii N, Tanaka T	皮膚科
臨床外科 6(4) 443-447 2006	肝切離における超音波吸引装置(CUSA™)の使い方	仲成幸 来見良誠 他	消化器内科 乳腺・一般外科
WVwaves 12(1) 18-20 2006	抗癌剤感受性テストと低侵襲治療—新しいオーダーメイド治療—	谷徹 目片英治 他	消化器内科 乳腺・一般外科

小計80

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Surg Res 135 179-186 2006	An easy-to-use microwave hyperthermia system combined with spatially resolved MR temperature maps: Phantom and animal studies	Demura K et al.	消化器内科 乳腺・一般外科
Urology View 4(6) 101-109 2006	ナビゲーションサージャリーの現状と将来	来見 良誠 谷 徹 他	消化器内科 乳腺・一般外科
Innovations 1(6) 295-313 2006	Transmyocardial Laser Revascularization: A Meta-Analysis and Systematic Review of Controlled Trials	Cheng D, Asai T	心臓血管外科
Innovations 1(6) 314-322 2006	Transmyocardial Laser Revascularization: A Consensus Statement of the International Society of Minimally Invasive Cardiothoracic Surgery (ISMICS)	Diegeler A, Asai T	心臓血管外科
Arterial Grafting for Coronary Artery Bypass Surgery 2nd Ed. 196-200 2006	Technique and Results for Skeletonized GEA Using the Harmonic Scalpel in Combination with Other Arterial Grafts in Off-Pump Coronary Bypass Surgery	Asai T	心臓血管外科
Cancer Immunol Immunother 55(5) 579-587 2006	Spontaneous elicitation of potent antitumor immunity and eradication of established tumors by administration of DNA encoding soluble transforming growth factor-beta II receptor without active antigen-sensitization	Kontani K, Fujino S	呼吸器外科
J Comput Assist Tomogr 30(3) 447-452 2006	Computed tomography appearances of bronchogenic carcinoma associated with bullous lung disease	Takahashi M, Fujino S	放射線科 呼吸器外科
Cancer Immunol Immunother 56(3) 331-342 2007	Successful tumor eradication was achieved by collaboration of augmented cytotoxic activity and anti-angiogenic effects following therapeutic vaccines containing helper-activating analog-loaded dendritic cells and tumor antigen DNA	Kontani K, Fujino S	呼吸器外科
肺癌 47(1) 9-12 2007	ゲフィチニブ隔日投与症例の検討	藤田 琢也、 藤野 昇三	呼吸器外科
肺癌 47(1) 41-46 2007	4回の手術、放射線治療、化学療法により長期生存を得ている胸腺癌の1例	大塩 恭彦、 藤野 昇三	呼吸器外科
日本呼吸器外科学会雑誌 21(2) 149-154 2007	胸腔鏡下肺生検で診断した肺MALTリンパ腫の1例	大内 政嗣、 藤野 昇三	呼吸器外科
医学のあゆみ 216(6) 447-450 2006	Mosaicplastyによる関節軟骨修復 一自家骨軟骨柱移植法	松末 吉隆	整形外科
Biomaterial 27 1327-1332 2006	A 5-7 year in vivo study of high-strength hydroxyapatite/poly(L-lactide) composite rods for the internal fixation of bone fractures	Hasegawa S Matsusue Y	整形外科
Hum Genet 119 611-616 2006	A large-scale genetic association study of ossification of the posterior longitudinal ligament of the spine	Horikoshi T, Matsusue Y	整形外科
J Orthop Sci 11 298-302 2006	En bloc resection, extracorporeal irradiation and reimplantation of an entire tibia: case report	Takahashi S	整形外科
日関外誌 25 497-502 2006	Giant cell tumor of tendon sheath in the wrist: MRI, thallium-201 and gallium-67 scintigraphic findings	Takahashi S	整形外科

小計96

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Hip Joint 32 615-618 2006	外傷性股関節脱臼に伴う大腿骨頭骨折に対する最小侵襲手術の試み	川崎 拓	整形外科
日関外誌 25 157-164 2006	Mid-term results of surgical treatment of periprosthetic femoral shaft fractures after total hip arthroplasty	菊地 克久	整形外科
J Orthopaedic Surgery 14(3) 336-339 2006	Closed reduction for traumatic posterior dislocation of the shoulder using the 'lever principle': two case reports and a review of the literature	Mimura T	整形外科
Neuroimage 33(1) 17-26 2006	Four subgroups of Alzheimer's disease based on patterns of atrophy using VBM and a unique pattern for early onset disease	Shiino A	脳神経外科
Neuro-Oncologyの進歩 15(1) 11-19 2006	脳腫瘍におけるMIB-1免疫組織化学	中州 敏	脳神経外科
Exp Cell Res 312(11) 2028-2039 2006	Activity of a novel PDGF beta-receptor enhancer during the cell cycle and upon differentiation of neuroblastoma	Kaneko M	脳神経外科
脊髄外科 20(1) 17-24 2006	Cylindrical titanium cageを用いた頸椎前方固定術後1年以上経過症例のレントゲン所見についての検討	鈴木 文夫	脳神経外科
頭頸部外科 16(1) 55-60 2006	鼻内視鏡下に治療を行った菌原性嚢胞症例	瀬野 悟史、 清水 猛史	耳鼻咽喉科
日本耳鼻咽喉科学会 会誌 109 649-654 2006	難治性鼻出血症例の検討—鼻内視鏡下血管クリッピングを中心に—	有方 雅彦、 清水 猛史	耳鼻咽喉科
耳鼻臨床 99 11 935-939 2006	鼻内視鏡下涙囊鼻腔吻合術症例の検討—手術手技の工夫と成功率の比較—	谷 鉄兵、 大脇 成広	耳鼻咽喉科
日本耳鼻咽喉科学会 会誌 45 4 390-393 2006	ステント留置を行った前頭洞嚢胞症例の検討	瀬野 悟史、 清水 猛史	耳鼻咽喉科
Acta Obstet Gynecol Scand 85(7) 885-886 2006	Mutational analysis of the follistatin-related gene in women with premature ovarian failure and polycystic ovary syndrome	Kimura F, Noda Y	女性診療科 母子診療科
日本生殖外科学会雑誌 19(1) 56-66 2006	子宮筋腫核出術のコツと術後癒着防止の工夫	高橋 健太郎	女性診療科 母子診療科
日本産科婦人科内視鏡 学会雑誌 22(1) 173-175 2006	卵巣子宮内膜症性嚢胞に対する内視鏡下卵巣外法 (extraovarian endosurgical technique; EET) の有用性	藤原 睦子、 野田 洋一	女性診療科 母子診療科
Am J Obstet Gynecol 195(5) 1343-1350 2006	Expression and activation of mitogen-activated protein kinase in the human endometrium during the menstrual cycle	Takahashi K	女性診療科 母子診療科
J Assist Reprod Genet 24(1) 5-9 2007	Effect of micro-environment maintenance on embryo culture after in-vitro fertilization: comparison of top-load mini incubator and conventional front-load incubator	Fujiwara M, Noda Y	女性診療科 母子診療科

小計112

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Arch Gynecol Obstet 275(3) 169-173 2007	Glucose intolerance in Japanese patients with polycystic ovary syndrome	Takahashi K	女性診療科 母子診療科
Gynecological Surgery 4(1) 25-30 2007	A comparative study using early second-look laparoscopic evaluation of post-operative adhesion formation between two surgical procedures for polystic ovarian syndrome	Takahashi K, Noda Y	女性診療科 母子診療科
Arch Gynecol Obstet 275(5) 405-409 2007	Odd variation of 75 g oral glucose tolerance test results in a Japanese patient with polycystic ovary syndrome: a case report	Takahashi K, Noda Y	女性診療科 母子診療科
Clin Oncol 18(6) 480-484 2006	Diagnosis of bone metastasis in men with prostate cancer by measurement of serum ICTP in combination with alkali phosphatase and prostate-specific antigen	Kageyama S, Narita M et al.	泌尿器科
Int J Urol 13(6) 703-706 2006	5-year interval change in voiding function of orthotopic ileal neobladder	Okada Y et al.	泌尿器科
J Magn Reson Imaging 25 170-174 2007	Magnetic resonance voiding cystourethrography for vesicoureteral reflux	Okada Y et al.	泌尿器科
Urology 69(1) 74-77 2007	Long-term functional outcomes of ileal and sigmoid orthotopic neobladder procedures	Okada Y et al.	泌尿器科
J Pediatric Urology 3 243-246 2007	Bilateral single ectopic ureters with hypoplastic bladder: How should we treat these challenging entities?	Johnin K, Narita M et al.	泌尿器科
Br J Ophthalmol 91(2) 193-198 2007	Pars plana vitrectomy with peripheral retinotomy following preoperative intravitreal tissue plasminogen activator: a modified procedure to drain massive subretinal hemorrhage	Ohji M	眼科
Retina 26(5) 583-585 2006	Forceps with scale marks for the transconjunctival sutureless vitrectomy system	Ohji M	眼科
Retina 26(5) 555-561 2006	Radial optic neurotomy for the management of hemicentral retinal vein occlusion: Long-Term Follow-Up Study	Ohji M	眼科
Magn Reson Imaging 24(1) 75-79 2006	N-Acetylaspartate concentrations in the thalami of neuropathic pain patients and healthy comparison subjects measured with (1) H-MRS	Fukui S	ペインクリニック科
PAIN RESEARCH 22(1) 27-33 2007	Proton MR spectroscopy in chronic pain patients	Fukui M	ペインクリニック科
The Pain Clinic 18(2) 161-165 2006	Lumbar discogenic pain patterns induced by intradiscal heat stimulation	Fukui S	ペインクリニック科
Clinical Neuroscience 24(10) 1102-1104 2006	視床細胞は炎症性の痛みをいかにコード化するか	福井 弥己郎	ペインクリニック科
J Anesth 20(2) 132-134 2006	Changes on MRI in lumbar disc protrusions in two patients after intradiscal electrothermal therapy	Fukui S	ペインクリニック科

小計128

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
癌と化学療法 33(7) 951-957 2006	VX2 担癌ウサギにおける肝動注用微粉末化Cisplatin製剤(アイエーコール)とLipiodol混和液動注後の血中総プラチナ濃度の推移と抗腫瘍効果の検討-7 Tesla MRIを用いて-	園田 明永、 新田 哲久	放射線科
J Synchrotron Radiat 13(5) 397-402 2006	Links Refraction contrast 11x-magnified X-ray imaging of large objects by MIRRORCLE-type table-top synchrotron	Takahashi M, Murata K	放射線科
Eur J Radiol 59(1) 60-64 2006	CT-guided needle biopsy of lung lesions: A survey of severe complication based on 9783 biopsies in Japan	Murata K	放射線科
Digestion 74(3-4) 199-205 2006	Newly Developed Biodegradable Stents for Benign Gastrointestinal Tract Stenoses: A Preliminary Clinical Trial	Tanaka T, Takahashi M	放射線科
J Control Release 17(1) 104-110 2007	Preparation of PEG-conjugated fullerene containing Gd ³⁺ ions for photodynamic therapy	Ohta S, Sonoda A	放射線科
Circ J 71(1) 112-121 2007	Multidetector-row computed tomography coronary angiography: optimization of image reconstruction phase according to the heart rate	Nagatani Y, Takahashi M	放射線科
J Magn Reson Imaging 25(1) 170-174 2007	Magnetic resonance voiding cystourethrography for vesicoureteral reflux	Takazakura R, Johnin K	放射線科
IVR会誌 Jpn J Intervent Radiol 22(1) 55-61 2007	鈍的脾損傷に対する治療: 脾動脈塞栓術の検討	河野 直明、 古川 顕	放射線科
IVR: Interventional Radiology 21(2) 214-215 2006	シスプラチン徐放ゼラチン粒子抗腫瘍効果の基礎的検討	大田 信一、 新田 哲久	放射線科
日本顎関節学会雑誌 18(1) 1-5 2006	顎関節クローズドロック症例に対するパンピング洗浄と関節腔洗浄の開口域・疼痛への影響の術後短期評価	猪田 浩理	歯科口腔外科
Int J Oral Maxillofac Surg 36(1) 39-44 2007	rh-BMP2-induced ectopic bone for grafting critical size defects: a preliminary histological evaluation in rat calvariae	Inoda H	歯科口腔外科
In Vitro Cell Dev Biol Anim 43(2) 49-58 2007	Transplantation of engineered bone tissue using a rotary three-dimensional culture system	Hidaka M	歯科口腔外科
FEBS Lett 580(17) 4121-4125 2006	Transient suppression of PPARgamma directed ES cells into an osteoblastic lineage	Yamashita A	歯科口腔外科
Transplant Proc 38(5) 1614-1615 2006	Stable maintenance of monkey embryonic stem cells in the absence of bFGF	Yamashita A	歯科口腔外科
Cloning Stem Cells 8(1) 3-9 2006	Monkey embryonic stem cells differentiate into adipocytes in vitro	Yamashita A	歯科口腔外科
Am J Cardiol 98(2) 141-144 2006	Alcohol consumption and coronary artery calcium in middle-aged Japanese men	Okamura T	福祉保健医学講座

小計144

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Acta Radiol 47(8) 810-816 2006	Iodine-123 BMIPP scintigraphy in the evaluation of patients with heart failure	Nakae I	呼吸循環器内科
Oncology Reports 16 411-416 2006	Detection of lymph node micrometastasis in pN0 early gastric cancer; Efficacy of duplex RT-PCR with MUC2 and TFF I in mucosal cancer	Sonoda H et al.	検査部
Human Molecular Genetics 15(6) 821-830 2006	Imprinted DLK1 is putative tumor suppressor gene and inactivated by epimutation at the region upstream of GTL2 in human renal cell carcinoma	Kawakami T et al.	検査部
J Neurol Neurosurg Psychiat 77 123-124 2006	Paraneoplastic cerebellar degeneration in olfactory neuroepithelioma	Maeda K et al.	検査部
Int J Mol Med 18(3) 425-432 2006	Neuromuscular abundance of RB1CC1 contributes to the non-proliferating enlarged cell phenotype through both RB1 maintenance and TSC1 degradation	Chano T et al.	検査部
診断病理 23 157-159 2006	腰部に発生した悪性グロームス腫瘍の一例	石田 光明 他	検査部
臨床病理 54 781-784 2006	前額部に生じた粘液化生を伴う淡明細胞汗腺腫の一例—免疫組織化学的検討—	石田 光明 他	検査部
日本臨床細胞学会雑誌 45(6) 329-332 2006	トルコ鞍斜台部に浸潤した蝶形骨洞原発の扁平上皮癌の一例	吉田 桂子 他	検査部
日本輸血細胞治療学会雑誌 52(6) 669-677 2006	コンピュータクロスマッチの導入効果—交叉試験で抗グロブリン邦を省略した利点とリスクの検討—	湯本 浩史 他	検査部
Japanese J Antibiotics 59 428-451 2006	2004年に全国77施設から分離された臨床分離株18,639株の各種抗菌薬に対する感受性サーベイランス	山口 恵三 他	検査部
Crit Care Med 34(3) 625-631 2006	A multicenter, prospective validation of disseminated intravascular coagulation diagnostic criteria for critically ill patients: comparing current criteria	Eguchi Y	救急集中治療医学講座
Gut 55(1) 34-40 2006	Attenuation of acid induced oesophagitis in VR-1 deficient mice	Fujino K	救急・集中治療部
Atherosclerosis 191(1) 199-205 2007	The association between high-density lipoprotein cholesterol level and cholesteryl ester transfer protein TaqIB gene polymorphism is influenced by alcohol drinking in a population-based sample	Tsujita Y	救急・集中治療部
J Hand Surgery	Congenital unilateral upper limb muscular hypertrophy associated with contracture of the extrinsic extensor tendon	Imai S	リハビリテーション部
中部整災誌 50(1) 81-82 2007	骨粗鬆症性脊椎骨折の整復に置ける椎体形成術の有効性	今井 晋二	リハビリテーション部
Anat Rec A Discov Mol Cell Evol Biol 288(7) 714-722 2006	In vitro model for mouse coronary vasculogenesis	Watanabe N, Nakagawa M	治験管理センター 小児科

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本小児臨床薬理学会雑誌 19(1) 32-35 2006	降圧薬の承認に向けた留意点	中川 雅生	治験管理センター 小児科

計 161

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 森田 陸司		
管理担当者氏名	総務課長 植垣 健一	医療サービス課長 山崎 勝治	病院管理課長 野本 滋
	薬剤部長 山路 昭	放射線部長 村田 喜代史	

		保管場所	分類方法	
診療に関する諸記録		医療サービス課 (診療情報管理室) 薬剤部 放射線部	診療録等の病歴資料は外来・入院別に1患者1ファイル方式による永久一元番号で分類し、入院が原本10年、10年以上経過後は光ファイリング化及び外来が最終来院日より10年間の保存を原則としている。エックス線写真は最終来院日より7年、死亡患者については5年の保存を原則としている。これらは、コンピュータによる集中管理を行っている。	
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務部総務課	/	
	高度の医療の提供の実績	病院管理課		
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院管理課		
	高度の医療の研修の実績	総務部総務課		
	閲覧実績	医療サービス課		
	紹介患者に対する医療提供の実績	医療サービス課		
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医療サービス課及び薬剤部		
	規則第9条の2及び第11条各号に掲げる体制の確保状況	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況		医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況		医療安全管理部
		医療に係る安全管理を行う部門の設置状況		医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況		医療サービス課
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況		医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況		医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況		医療安全管理部
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況		医療安全管理部		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	副 病 院 長	綿 貫 祝 生
閲覧担当者氏名	医療サービス課長	山 崎 勝 治
閲覧の求めに応じる場所	病 院 小 会 議 室	

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数		延	0 件
閲 覧 者 別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	0 件
	地 方 公 共 団 体	延	0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹 介 率	50.8%	算 定 期 間	平成18年4月1日～平成19年3月31日
算 出 根 拠	A：紹介患者の数	10,144 人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	7,178 人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	1,944 人	
	D：初診の患者の数	30,732 人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式13-2)

規則第9条の23及び第11条各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	(有) (2名) ・ 無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有) (1名) ・ 無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	(有) ・ 無
<p>・ 所属職員： 専任 (3) 名 兼任 (11) 名</p> <p>・ 活動の主な内容： 医療事故防止及び感染予防対策の推進に関する事、医療安全管理委員会及び感染予防対策委員会への情報提供及び改善策の提案に関する事、インシデント報告の調査及び分析に関する事、安全管理に関する事例、対策等の情報収集に関する事等 (別添「滋賀医科大学医学部附属病院医療安全管理部規程」参照)</p>	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	(有) ・ 無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有) ・ 無
<p>・ 指針の主な内容： 医療安全管理に関する基本的な考え方、医療安全管理のための委員会その他組織に関する基本事項、医療安全管理のための職員研修に関する基本方針、報告等に基づく医療に係る安全確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針、医療事故発生時の対応に関する基本方針、患者からの相談に対する基本指針、患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針等</p>	
⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・ 活動の主な内容： 発生した医療事故の患者及び家族等への対応に関する事、医療事故に係る公的機関への報告及び公表に関する事、医療事故防止対策の企画立案に関する事、安全管理指針の策定に関する事、医療事故防止マニュアルに関する事、医薬品業務手順書の策定に関する事、医療事故報告書の事故状況等の分析に関する事等 (別添「滋賀医科大学医学部附属病院医療安全管理委員会規程」参照)</p>	
⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 5 回
<p>・ 研修の主な内容： 講師を招聘しての講演会、院内講師による研修会、外部の研修会への参加等</p>	
⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有) ・ 無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： ニュース・レターの発行や院内ホームページへの掲載により、職員に周知している。 毎月の重要なインシデント及びその対策について、各部署リスクマネージャーが周知し、情報の共有化を図っている。院内ラウンドによるチェックを行っている。</p>	

滋賀医科大学医学部附属病院医療安全管理部規程

平成16年4月1日制定

平成19年5月15日改正

(趣旨)

第1条 この規程は、滋賀医科大学医学部附属病院規程第13条第6項の規定に基づき、医療安全管理部（以下「安全管理部」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 安全管理部は、病院における医療事故の防止、院内感染の予防等医療の安全性の向上を図ることを目的とする。

(組織)

第3条 安全管理部に次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) 部長
 - (2) 副部長 3名
 - (3) ゼネラルリスクマネジャー
 - (4) 感染管理看護師
 - (5) 教員及び医療技術職員 若干名
 - (6) 病院管理課長
 - (7) 医療サービス課長
 - (8) 病院管理課職員 若干名
- 2 部長は、副病院長（総括・リスクマネジメント担当）をもって充てる。
- 3 部長は、安全管理部の業務を統括する。
- 4 副部長のうち2名は部長の指名を経て、1名は看護部長の推薦を経て病院長が委嘱する。
- 5 副部長は、部長を補佐し、部長に事故あるときは、あらかじめ部長が指名した副部長がその職務を代行する。
- 6 ゼネラルリスクマネジャーは、安全管理部の専任教員及びリスクマネジメント担当の専任看護師長をもって充てる。
- 7 ゼネラルリスクマネジャーは、部長の命を受け安全管理部の所掌業務を処理するほか、リスクマネジャーの指導、医療安全管理委員会との連絡調整を行う。
- 8 感染管理看護師は、部長の命を受け、安全管理部の所掌業務を処理するほか、安全管理に関する職員の指導、感染予防対策委員会との連絡調整を行う。
- 9 教員及び医療技術職員は、部長の命を受け、安全管理部の業務に従事する。
- 10 病院管理課職員は、部長の命を受け、安全管理部の事務に従事する。

(業務)

第4条 安全管理部の業務は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 医療事故防止及び感染予防対策（以下「安全管理」という。）の推進に関するこ

と。

- (2) 医療安全管理委員会及び感染予防対策委員会への情報提供及び改善策の提案に関すること。
- (3) インシデント報告の調査及び分析に関すること。
- (4) 安全管理に関する事例、対策等の情報収集に関すること。
- (5) 安全管理に係る教育、研修等の企画及び実施に関すること。
- (6) 安全管理に関する院内巡視、記録等の点検及び評価に関すること。
- (7) 安全管理に関するマニュアルの作成に関すること。
- (8) 安全管理に関する広報・啓発活動に関すること。
- (9) リスクマネジャーの会議等に関すること。
- (10) その他安全管理に関すること。

2 安全管理部は、医療事故等が発生した場合において、「医療事故発生時における対応指針」（平成12年7月19日制定）及び「滋賀医科大学医学部附属病院医療事故等発生時の報告に関する取扱要項」（平成15年5月21日制定）を踏まえ、関係委員会と連携し、対応するものとする。

（インシデント検討会）

第5条 安全管理部に、インシデントの再発防止策を検討するため、インシデント検討会を置く。

2 インシデント検討会の組織及び運営に関し必要な事項は、安全管理部が別に定める。

（リスクマネジャー会議）

第6条 安全管理部に、医療事故防止のための検討事項及び具体的な改善計画等の情報を伝達するため、リスクマネジャー会議を置く。

2 リスクマネジャー会議について必要な事項は、安全管理部が別に定める。

（ワーキンググループ）

第7条 部長が必要と認めたときは、安全管理部にワーキンググループを置くことができる。

2 ワーキンググループについて必要な事項は、安全管理部が別に定める。

（その他）

第8条 この規程に定めるもののほか、安全管理部の運営に関し必要な事項は、安全管理部が別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月18日から施行し、平成18年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成19年4月17日から施行し、平成19年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成19年5月15日から施行する。

滋賀医科大学医学部附属病院医療安全管理委員会規程

平成16年4月1日制定

平成19年9月18日改正

(設置)

第1条 滋賀医科大学医学部附属病院（以下「本院」という。）に、本院における医療事故の防止に関する基本的事項を審議するため、医療安全管理委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 医療事故防止対策の企画立案に関すること。
- (2) 医療事故報告書の事故状況等の分析に関すること。
- (3) 医療事故の防止に係る教育及び研修に関すること。
- (4) 医療安全管理指針の策定及び変更に関すること。
- (5) 医薬品業務手順書の作成又は変更に関すること。
- (6) 医療事故防止マニュアルに関すること。
- (7) 医療事故に係る公的機関への報告及び公表等に関すること。
- (8) 発生した医療事故の患者及び家族等への対応に関すること。
- (9) その他医療事故、医事紛争及び訴訟に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 病院長
 - (2) 副病院長（総括・リスクマネジメント担当）
 - (3) 医療情報部長
 - (4) 臨床医学講座及び病院の教員（前号に掲げる者を除く。） 若干名
 - (5) 医薬品安全管理責任者
 - (6) 医療機器安全管理責任者
 - (7) 副看護部長 1名
 - (8) ゼネラルリスクマネジャー
 - (9) 専任感染管理看護師
 - (10) 病院管理課長
 - (11) その他委員長が必要と認める者
- 2 前項第4号及び第10号の委員は、病院長が委嘱し、その任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 3 欠員により補充された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 第1項第6号の委員は、看護部長の推薦により病院長が委嘱する。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長は、病院長をもって充て、副委員長は、副病院長（総括・リスクマネジメント担当）をもって充てる。

3 委員長は、委員会を召集しその議長となる。

4 副委員長は、委員長の職務を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

5 委員会は、原則として毎月1回開催するものとする。ただし、委員長が必要と認めるときは、臨時に開催することができる。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の委員会への出席を求めて、説明又は意見を聴くことができる。

(医療事故調査委員会)

第6条 委員会に、重大な医療事故が発生した場合における事故原因の調査究明及び必要な対応策について審議するため、必要に応じ医療事故調査委員会を置く。

2 医療事故調査委員会について必要な事項は、別に定める。

(事務)

第7条 委員会の事務は、医療安全管理部において処理する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年10月1日から施行する。